

## 研究計画書

ゼミ名	足立ゼミⅡ	チーム名	STOP！！消滅化
タイトル	[急募]神戸に住みませんか？		
テーマ群	b) 財政・金融      c) 公共経済		
メンバー	安保美里 井上桜 大橋宗平 岡本健吾 合田結那 龍見柊平 廣田展之 松本明音 三木千尋 高見航太 河野玲		
研究計画内容	<p>4 世紀、突如としてヨーロッパの各地に人々が押し寄せてきた。ゲルマン民族の大移動である。この大移動には、「1 つに人口増加による農作物の耕作地不足。2 つめに、東方からくるフン族の攻撃への避難。」が理由として考えられている。このように人間は、昔から絶えず時代に応じた理由によって移動を行ってきた。今日では、その人間の移動が社会問題へと発展してきている。</p> <p>近年、消滅自治体に象徴されるように、少子高齢化を背景とした人口減少が地方を中心に緊迫した問題となっている。一方で、都市部では進学や就職を契機に労働人口の集中という社会的流入が生じている。人口減少は「人口流出」に言い換えられるように、2 つの要因に起因する。1 つは、社会的理由で人口が減少する社会的流出がある。2 つめに、出生率や災害などの自然現象によって人口が減少する自然的流出がある。</p> <p>全国規模の人口移動に関しては、これまで多くの研究が論じてきた。田淵（1986）は、人口移動者は他の条件が等しければ、所得を最大化すべく移動決定を行うとした。中川（2001）は、結婚の前後に非大都市圏から大都市圏へ移動する女子が多いと述べている。川相（2005）は、新築分譲マンションの低価格化等の要因により、大阪と東京の都心回帰現象がみられることを明確にした。</p> <p>そこで本研究は、第 1 に、2010 年と 2013 年の国勢調査、人口動態調査ならびに住民基本台帳報告の兵庫県、大阪府、京都府、東京都の生産年齢労働人口、転入－転出（社会増減率）、出生－死亡（自然増減率）データを使用し、関西圏と東京の人口移動に差異が生じていないかを明らかにする。第 2 に、兵庫県、大阪府、京都府の市町村データを使用し、人口規模の異なる地域で一定の規則性があるかを検証する。最後に本研究では、いかにして兵庫県に人を留めることができるかを検討する。</p>		